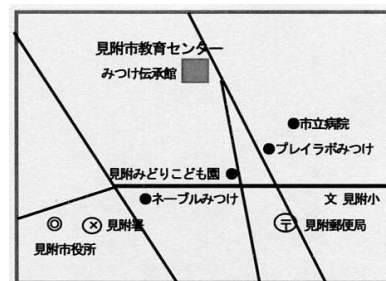


見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話／Fax 0258-62-2343

E-mail mrissen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和7年9月18日 NO.6

『田井小学校：稲刈り』9月3日

『未来の土台を作る』～将来につながる自立活動に～

嘱託指導主事 倉上 美津枝



「ラーメン屋さんになりたいな…」通級指導で関わった子が話してくれた夢です。家族仲が良く、祖父の畑の手伝いが大好き。学校生活では頼られる存在でした。けれども読み書きの苦手さがあり、学習活動では苦労をしていました。

その子は文字を下から書くことがありました。例えば、数字の『4』を書く時に、下から縦棒を書き始めて、一筆書きのようにして完成させました。ノートのマス目の空間のどこに始点を置いたらいいのかが分からない。だから、マス目の下に始点を置くと書きやすくなると、その子の書くための工夫の一つだと思われました。そこで、「空間認知の力を高める」ことを目標(作戦)への一つにして、様々な指導を試みました。

この子は真剣に課題に向き合い、できることが少しずつ増えました。読み書きの苦手さは残っていましたが、自己肯定感が高まり、自信をもって次のステップへ進んでいきました。自立活動によって将来の選択肢を広げることができたのです。

さて、『自立活動』は障害のある児童生徒の教育にとって、教育課程上重要な位置を占めています。『個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を培う』ことをねらいとしている(文部科学省)』と記述されています。6つの内容「1 健康の保持、2 心理的な安定、3 人間関係の形成、4 環境の把握、5 身体の動き、6 コミュニケーション」に分けられ、27項目で構成されています。自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。実態把握の一つとして自立活動の内容を活用できます。

教育活動全般に言えることですが、早くから将来を見据えて、時間をかけて力を伸ばし、自己実現に近づけていくことが大切です。実態を正しく把握し、具体的に(作戦)を立て、指導によって得られた成果を本人や保護者と共に喜び、共有します。それが、次のステップへの原動力になります。焦らず、コツコツと成長を促していきたいものです。その積み重ねの中で、教師自身のスキルも確実にステップアップします。

自立活動を計画する上で、『学校種別の事例でポイントがわかる！特別支援教育『自立活動』の授業づくり(いるかどり 他、ソシム 2024)』が参考になります。

自立活動シートに記入しながら実態把握をしていくことができる本です。

巻頭写真に寄せて「稲刈り体験をする子どもたち」

◇春、田井小のT教頭先生に電話をすると、事務のH先生が「今、田植えを行っています。」と教えてくれた。9月に入って、T教頭先生に用事があり、電話をすると、不在で「明日の午後伺う。」と伝えて切った。翌日の昼前、T教頭先生から、「今朝、雨で出来なかった稲刈りを午後に行う。」と連絡をもらった。以心伝心か、用件の一つが「稲刈りの様子を見せて欲しい。」だった。喜び勇んで出かけた。学校に着くと、既に3年生以上の子どもたち、保護者や地域のボランティアの皆さんが、学校田前に集まっていた。

◇子どもたちは体育着に赤白帽、長靴に軍手。さらに水筒持参と準備万端。学校田の脇には、コンバインと収穫した米を運ぶ軽トラのスタンバイの様子を見て、これから始まる稲刈りのスケジュールを頭の中で描いた。『ボランティアの方から、安全に稲刈りができるよう、鎌の使い方を学ぶ。田んぼに入って、一列に並び一斉に刈り出す。刈った稲がたまったら、天日干しができるよう藁でまるける…』と想像をしたのだが、数株刈り取ったところで稲刈りは終了。猛暑日で熱中症対策であろう。全員で笑顔いっぱいの記念写真(右写真)を撮り、子どもたちは満足そうな表情で校舎内へ移動した。

◇その後、学校田ではコンバインが手際よく刈り取りを行っていった。その様子を一緒に見ていたK校長先生から、「学校田はもち米を作っています。低学年がさつま芋を育てて、中学年がシイタケを栽培していて、11月にやる『子育て教育の日』に、それでおこわを作り、お世話になった人たちと一緒に食べるのです。」と言われた。鎌で稲刈りをした子どもたちは、良い体験をしたと思うし、この日食べるおこわは、格別に美味しいことだろう。



ボランティアの皆さん



一列に稲刈りスタート



全員で、ハイポーズ



最後はコンバインで

『オサムちゃん みつけた！』

◇この夏のTVドラマで、「日曜劇場 19 番目のカルテ」が、大変に人気があったという。医師(病院)のドラマといえば、「Dotor・X外科医・大門未知子」の『私失敗しないので』の手術シーンを思い出す人が多いだろうか。さて、このドラマは病気を診るだけではなく、心や生活背景をもとに患者の最善を見つけ出し、生き方そのものに手を差し伸べる総合診療医の物語だった。総合診療医は2018年度から始まった19番目の新領域であるが、自分が病気になった時には、ドラマのような患者に寄り添う医師に診てほしいと強く思った。

◇それは、私が今年、緊急入院をして手術を受けた時のことである。主治医をはじめスタッフの皆さんのおかげで、今、元気で生活ができていることに感謝である。この入院生活の中で、『オサムちゃん みつけた！』(作 村上徹「広報みつけ」連載)のオサムちゃんのように、色々考えることがあった。医療現場が大変で、そこで働く人たちに敬意と感謝が大前提にあるが、実際に病気になり辛いと感じたことを書きたい。1つは、救急車はすぐ来てくれたが、搬送先(受け入れ病院)が決まらずに、長時間救急車で待った。2つは、休日の夜の発症で、総合病院でも専門医(手術スタッフ)が揃わないこともある。3つは、診療科が細分化され、その治療のみで総合的に診てもらうことが難しい。4つは、検査は研修医が行うことが多く、主治医と技術差が大きいのに驚いた。5つは、看護師も同じで、様々な検査も患者への接し方も個々で違うと思えた。その中で、素晴らしいと思ったことは、患者対応は主治医だけではなく、多くの医師がチームで対応をしている。そこには研修医も加わり先輩医師の指導の下、実践を通して実力をつけていた。

◇翻って学校を考えた。新採用教員もチーム指導で、力を付けている。その後はどうか。様々な研修があるが、なかなか参加できない現実があるのではないかな。多忙な毎日であるが研鑽に励み、指導力アップに努めてほしいものである。(こ)



4時から夢塾 「適切な関わり方で子どもに寄り添う方法」

第9回「4時から夢塾」を8月29日(金)に、寺島幸優先生(公認心理師)から、表題のテーマでご指導をいただいた。簡単に説明をする。

1. ストローク 心の栄養存在の肯定

◇ストローク…人が他の人に対して伝える、心に響く言葉や行動のこと

○演習「ストロークを要求して受け取る練習」

- ・ストローク 無条件(-) く 条件付(-) く 条件付(+) く 無条件(+)
- ・相手に欲しいストロークを出してもらう。
- ・互いにストロークを出し合ったら感想をシェアする。

2. 子どもとは

- (1)すべての子どもはOKである…生まれながらに価値がある存在。
- (2)子どもには個性がある…どの子どもにもユニークな個性がある。
- (3)子どもは素晴らしい能力を持っている…支援していくことが大切。
- (4)子どもは愛情と承認、関わりや支援を求めている。

3. ペアレントトレーニング(以下ペアトレ)の理論を実践

◇基本的な生活習慣や行動様式等を学び、「行動」が変わるアプローチ

○「褒める・認める」と「罰・ペナルティ」を上手に組み合わせる。

- ・できるが嬉しい → 先生が見てくれる。
- ・寄り添ってくれるが嬉しい。 → やる気につながる。

○急がず慌てず、まずは現状を把握することから

- ・普段していることを言語化して、意識化して整えてやってみる。
→引き金と結果を調整して、行動を変えていく試みをする。

○第一の基本…好ましい行動を見つけ、認めて好ましい行動を増やす。

→根気よく関わりを調整する。

○第一の基本がある上で、好ましくない行動を減らす。

→好ましくない行動は知らんぷり(計画的無視)、好ましい行動がでたらすぐに認める。

○なんでそうするのか「わけがわからない」 = 子どもをよく見る。

「引き金⇒行動⇒結果」を分析するのが近道…結果によって行動が増えるのが原則。

○ペアトレに大事なこと 助走が必要:小さな目標を重ねる・最初のうちは一緒にやる。

- ・ペアトレの意義…好ましい行動を増やす手段 子どもを理解していくためのツール。

○演習「実践・ペアトレ」…児童のやる気とできるにつながる関わりのコツを学ぶ。

<参加者の声> ・普段の行動を見つめ直す、素敵なきっかけになった。「子どもへの指示の出し方」「警告と罰の与え方」が大変参考になり、これからやっていきたい。

- ・計画的スルーが、マイナスの行動を改善できることがよく分かった。実践したい。
- ・いい行動を増やすためにどうするか、アイデアを出し合うことが大切だと思った。
- ・褒められると嬉しいは誰も同じ。プラスの言葉をこれまで以上に意識していきたい。
- ・常々イライラするのは、負のサイクルにはまっているからだとなり、このサイクルから抜けること。そのために好ましい行動をすぐに褒めること。すぐに実践したい。



寺島幸優 先生



4時から夢塾 「フリージアの取り組み」を学ぶ

第10回は9月11日(木)に、フリージアみつけ代表の真壁薫先生から、上記のテーマでご指導をいただいた。具体的には、「子どもたちへの継続したチーム支援で、幸せな社会をめざす取り組み」について、実に分かりやすく教えていただいた。簡単に説明をする。



真壁 薫 先生

1、フリージアみつけ《放課後等デイサービス・保育所等訪問支援》

(1)放課後等デイサービス…対象は小学生から高校生の障害児(6歳～18歳が中心)

○目的は学校終了後の居場所の確保。生活スキル等の自立支援。家族の休息。

(2)保育所等訪問支援…障害のある子どもや発達に特性のある子どもが地域の集団生活に安心して参加できるよう、専門スタッフが保育所等を訪問して行う福祉サービス。

○メリット…子どもが通っている実際の場で、支援が受けられる。

先生や支援員が子どもの理解を深め、適切な関わりができる等

(3)先生たちは忙しい…先生たちに迷惑をかけないように訪問したい。

(4)子どもたちの様々な困り感

○諸検査で測れない困り感…WISCV、K-abcⅡ、K式、田中ビネー等

○色々な困り感…親の死や病気。不仲・離婚。貧困・災害・転居等



2. フリージアみつけの取り組み「18歳の自立をめざす」

(1)一人ひとりの18歳の自立をめざして取り組む

○実態把握をきめ細かく行う。自己決定や相談ができる支援をする。

○引きこもりにならない。通学・通所は自力で。お手伝いをする。

(2)18歳までに身に付けたいことは「心と体の健康管理」

○食事・睡眠・体力・通院・服薬の管理。体調不良時の対応。自分の障害や症状について理解している。辛い時に自分でSOSが出せる。

○日常生活管理・生活リズム…早寝早起き・生活リズム・身だしなみ等

(3)支援は理解を越えない

○長所を伸ばすことはもちろん…、大好きなことを一緒にさがそう。

○自立とは「依存先を増やすこと」…各種ある福祉サービス。

・個別のライフスタイルを考える…ニューロダイバーシティ。神経の繋がり方は多様。

・夢とはデザイン…あらゆる支援を受け、その人にあった人生をデザインする。

・福祉サービスをライフジャケットとして大海に出ていこう。

<参加者の声>・小学校時代は大変だった子どもも立派に成長しているという話が聞けて「子どもの力を信じよう」「子どもの可能性を信じよう」と思える力をもらった。

・明るさとパワーが満ち溢れた話は深刻でなく、前向きなものであり元気をもらった。

・放課後等デイサービスの目的の中に「保護者の休息」があり、紹介したいと思った。

・適切な支援を受けることができたから、逞しく人生を歩むことができていいる方がたくさんいると感じた。自立とは「依存先を増やすこと」という言葉が印象に残った。

・一人の障害のある子どもに対して、関わるすべての人が共通理解をもって接すると、必ず「良い方向へ向かっていくのだ」と希望をもつことができた。

・関係機関と連携を効果的に行うには互いを知ることが大切で、その上で共通の目的をもち、学校でできることと福祉の面で支援できることを行っていく重要性を感じた。



9月

科学教育部



左:9/1(月)野外研修会「天体観測会」の様子

右:「天体観測会」で撮影した月齢 8.9 の月

【10.11 月の研修案内】

1	単元別研修会 【生活科 秋のおもちゃづくり】	10月10日(金) 15:40~16:40	秋に関係する身近な自然物を使ったおもちゃ作りを体験します。
2	単元別研修会 【小5 もののとけ方】	11月28日(金) 15:40~16:40	単元の進め方のポイントを紹介し、溶解度に関する教材の作成や実習をします。

※研修会の申込について、新たな参加希望がありましたら、見附市教育センター科学教育部まで電話またはメールで申し込みをしてください。

【9.10 月のイベント案内】

1	見附市児童生徒 夏休み作品展	9月27日(土)~28(日) 9:30~16:30 【ネーブルみつけ 多目的広場】	夏休みに児童生徒が製作した自由研究の作品が展示されます。今年度は、見附市内の児童生徒 196 人の作品を展示する予定です。ぜひネーブルみつけでご覧下さい。
2	第 61 回 見附市児童生徒 科学研究発表会	10月2日(木) 13:30~16:40 【見附市中央公民館】	夏休みに児童生徒が調べた科学研究をタブレット端末を使って発表します。今年度は、令和になって最多の 47 人の児童生徒が研究を発表します。ぜひ見附市中央公民館でご参観下さい。

※どちらのイベントも入場無料です。マナー良く参観いただきますようお願い申し上げます。

科学の公園

生き物は住処をどのように選んでいるの？

見附市立名木野小学校 森野 敦士

9月に入り、朝夕の空気に少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。校庭や近くの公園では、アキアカネが空を舞い、ショウリョウバッタが草むらを跳ね、スズムシの鳴き声が耳に心地よく響いています。季節の変化に合わせて現れる生き物たちは、理科の学びにもつながる貴重な観察対象です。

ところで、こうした生き物たちは、なぜその場所で見られるのでしょうか？ 見附市立名木野小学校3年生の子どもたちは、理科の学習を通して「生き物と住処の関係」について調べていきました。身近な自然の中での発見をもとに、それぞれの生き物がどんな環境を好み、どのように暮らしているのかを考える活動です。

まず、子どもたちは自身の経験をもとに、生き物がなぜそこにいるのか考えました。



2年生の時に、空中に飛んでいるトンボを見たよ
もしかすると、エサを探していたのかもしれない

ショウリョウバッタは草むらで見たよ。敵から
身を隠すために、体と同じ色の場所を選んでいるかも



じゃあ、畑にいたテントウはどうなのかな？
真っ赤な体だから、隠れていないと思うけど

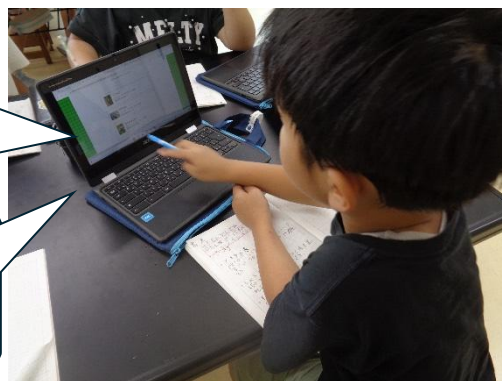


考えを出し合うと、「エサが関係しているかも」「身を守ることと関係しているかも」

という可能性が出てきました。子どもたちからも「本当か確かめたい」と声が挙がりました。そこで、自分で自由に生き物を選び、図鑑を使って可能性について調べていきました。

ショウリョウバッタは、日当たりのよい草むらにいて、
イネなどの草を食べているんだって。日がないと草も
成長できないから、エサが成長しやすいところを選ん
でいそうだね。

ナナホシテントウは、畑の草むらにいて、アブラムシを
食べる。そういえば、2年生の時、ピーマンにアブラム
シがいっぱい付いていたから、テントウムシはエサを食
べるためにそこを住処にしているのかも。



自分で選んだ生き物について調べる様子

最終的に、子どもたちは、図鑑で得たエサや体の色などの情報と住処の特徴を関連付けて、可能性が高い、真実に近いということに気付くことができました。

暑さが少しずつ落ち着き、秋を感じられるようになった今、みなさんも、子どもたちが気付いた生き物の特徴をもとに、住処を探してみたいはいかがでしょうか。

当センター科学教育部兼任所員の名木野小学校 森野敦士先生からご寄稿いただきました。